



浄土真宗の教義と安心を体系的に学ぶ

専如ご門主さまは、伝灯奉告法要初日のご親教『念仏者の生き方』において「あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います」とご教示くださいました。

ご法義を正しく、わかりやすく伝えるには、自らの宗学研鑽を欠かすことはできません。浄土真宗の教義と安心を体系的に継続して学んでいただけたところが宗学院別科です。平成14年に開設し、今日まで延べ900人を超える僧侶の方に受講いただきました。

重要文化財である龍谷大学大宮学舎本館講堂において、勸学司教の和上による「安心論題」「本典概説」「三経七祖教義」「仏教概論」の講義が開講されます。

浄土真宗本願寺派教師の方を受講対象としておりますが、聴講制度もございます。多くの方のご応募をお待ちいたしております。

宗学院

別科 受講生

2018

平成30年度



募集

□ 担当講師

安心論題で
教学のカナメが学べます。

「安心論題」担当



本願寺派勸学
龍谷大学教授
深川 宣暢

本典を通して、
教義体系の全体像を学びます。

「本典概説」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
殿内 恒

親鸞聖人の教学の基盤は
浄土三部経と七祖の教えにあります。

「三経七祖教義」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
武田 晋

仏教を学べば、
浄土真宗の基本が分かります。

「仏教概論」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
藤丸 要

お問い合わせ先

浄土真宗本願寺派

宗学院

〒600-8501

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内

TEL. 075-371-5181(代)

<http://shugakuin.hongwanji.or.jp>

受 講 生 の 声 — こ え —



おおみな

大南

しん いち

真一

平成28年度より受講

勧学寮真宗講座を修了した後、継続して学びたいと思い宗学院別科に願書を提出しました。東京から毎週夜行バスでの通学は、本当に続けられるだろうかと不安もありましたが、気が付けば1年半が過ぎようとしています。

和上方のご講義は、とても楽しく充実した時間で、今ではお聖教を開くことがとても楽しく感じます。と同時に、声を通して直接「お御法」が伝わることの有難さにも気づかせていただきました。ここはまさに「ご法義の温泉」です。「お御法」が和上方の声となって届いてくださいますので、私はただ身を浸しているだけですが、それがとても心地よく有難いのです。

また宗学院別科は、様々な経験を積まれた方・幅広い年代の方との出会いがあり、ふとした会話の中にも「あ！」と気づかせてくださり、沢山のお育てを感じる場所でもあります。このように充実した時間が送れるのも、多くの方の支えがあってこそと、感謝しております。



く が

久我

まさ み

雅実

平成29年度受講

住職である夫が、7年ぶりに宗学院別科を受講するということが、夫と一緒に受講しないかと勧められました。また、日頃、坊主としてご門徒の皆さんと接することが多いのにもかかわらず、本当に、親鸞聖人のみ教えについて頼りない自分なので、勉強するのによい機会だと思い、別科を聴講させて戴くことを決意いたしました。

難いお言葉も多いですが、先生方の丁寧でわかりやすいご講義により、「あっ、そうだったのか」「そういう意味だったのか」と、今まで分からなかったことも、少しずつではありますが、分かってきたような気がしております。今では、学ぶ事の喜びを感じ、次のご講義でどんなお話を聞かせていた

だくか楽しみのなっています。70分のご講義は、あっという間です。

午前中のご講義のあと、龍大の学食でのランチも楽しみの1つです。また、図書館も利用できることも嬉しくて、何十年ぶりの学生気分を味わっております。

そして、その日のご講義の復習会?という名目で、夫と2人で、新大阪駅の串カツ屋さんに寄り道して帰ることも恒例となっております。皆さん、勉強の後の乾杯は格別ですよ。



さだ みつ

定光

あつし

淳

平成29年度受講

私は10年ほど前に得度を受け、教師教修を受けさせていただきました。しかし、それからしばらくは、ご法義から離れた生活を送ってきました。そんな中、様々なご縁をいただいて、昨年度布教使課程Aコースを受講させていただきました。受講する中で、私にはまだまだご法義の学びが足りないことを痛感しました。布教使課程を終える時、宗学院別科をお勧めいただき、今年度受講することにいたしました。

別科を受講すると、最初は講義が難しいと思っていました。しかし、先生方のわかりやすい講義のおかげで、少しずつ理解が深まっていくことを実感します。また、講義とは別に公開講座もありますが、興味深いテーマばかりで、今まで知らなかった新しいことを学べる喜びを感じています。

受講を検討されている方には、是非お勧めしたいと思います。月に数回のペースで通うことはそう大きな負担にはなりませんし、ご法義と向き合う機会として、大変ありがたい時間となると思います。



しい な

椎名

やよひ

平成28年度より受講

様々なご縁に導かれて、今、宗学院別科で学ばせていただいていることを、有り難く思っています。

宗学院別科では、仏教・浄土真宗の教義・教学を明確かつ丁寧に、ご講義くださいます。そこには、和やかな中にも、一語一語の言葉の重みが存在し、また難しい内容を、身近な例を交えて分かり易くご教示くださいます。和上方のご講義により、それまで自身の中で茫漠としていたものの輪郭の一部に気づかされたとき、この思いを味わうために、今日来させていただいたのだと喜びが湧いてきます。

また、助手や職員の方々は、きめこまなお世話をしてくださり、些細な質問にも親切にお答えくださり、感謝しています。

そして、共に学ぶ法友にも恵まれ、掛け替えのないお一人お一人の、その真摯な姿勢からも、多くを学ばせていただいています。



なか い

中井

いたる

至

平成29年度受講

何年か前から先輩の布教使の先生から宗学院別科へ行ったら体系的に学んではいけないですよと誘われていました。自分の学びが浅いのはよくわかっているので、はたしてついていけるかどうか心配でした。昨年10月、本山の伝灯奉告法要のお手伝いに行かせていただいた時、一緒に過ごさせていただいた方から「私も別科に行っています。とても充実していますよ。」と聞かされ、決心しました。今年の4月から通わせていただいています。仏教に関する用語はそのときの状況によって使い方が微妙にちがいます。だから本当に難しいです。一緒に受講させていただいている方とも少しずつ交友のご縁ができ、背伸びすることなく、自分のペースで受講させていただいています。いろいろな方のおかげで飛び込ませていただいたこの宗学院別科、ただただ、感謝申し上げます。



ふじ わら

藤原

あや こ

章子

平成28年度より受講

昨年度から受講し、幅広く学ばせていただいております。和上方について御聖教の頁をひもとくたび、毎回、「ああ、そうか」と思える気付きがあります。いまだ言葉として記憶していた御文が、こういうことだったのか。と、自然と入ってきて、有り難く聴かせていただいています。

講義の内容は決して平易ではありませんが、講師の和上方はとても熱心にご講義くださり、少しずつ身に入ってきます。もちろん、1回聴いてわかるだけではなく、今年度も継続して受講させていただいています。最初は講義について行けるのだろうかと思っていましたが、和上方のお

話に自然と引き込まれていました。また、別科には、幅広い年齢の方が遠近各地より足を運ばれます。皆さんとても熱心で、重い御聖教をかかえて朝早くから来られ、頭の下がる思いです。継続して受講されておられる方も多くおられ、お互いに声をかけ合い、励まし合いながら学ばせていただいています。

講義は重要文化財の龍谷大学大宮学舎本館講堂で開講されます。この場所で週1回の受講をさせていただけることは、歴史の重みの中で御教えを学ぶ貴重な機会となっています。

週1回の開講は仕事との両立もしやすく、是非、自分のための学びの時間をお勧めいたします。



まつ もと

松元

としひろ

敏弘

平成28年度受講

私は、中央仏教学院通信教育課程を卒業後、仏教を体系的に学ぶ機会を持ちませんでした。

その後、平成26年から2年間、名古屋別院での真宗講座で浄土真宗の要義を学ばせていただきました。そして講座終了時に、宗学院別科の受講生募集の案内をいただきました。丁度、真宗の教義を継続して学びたいと思っておりましたので、すぐさま応募させていただき、今日に至った次第です。

龍谷大学大宮学舎本館という恵まれた環境の中で、和上方が悪切丁寧にやさしく丁寧な真宗の奥義を面受させて頂けることはまことに有難いことです。また講義の内容を十分理解できるレベルではありませんが、一年目に分からなかったことが、今は少しずつ理解できるようになってきて、学ぶ喜びを感じています。また受講を共にする方々との交流は見習うことが多く、励みになります。今は、受講させていただき本当によかったと感謝しています。



み し ま

三嶋

こ

ゆみ子

平成29年度受講

宗学院別科で学ばせていただき半年が過ぎました。日々、ご講師の方より、阿弥陀如来のおこころ、親鸞聖人のおこころを聞かせていただくことを嬉しく思います。

このようなご縁をいただきましたのは、昨年96歳で往生をしました、祖母のおかげです。最期まで精一杯、いのちを全うする姿を示してくれました。

“人身受けがたし、今すでに受く” “人として生まれたこのいのちを、大切にしてほしい”と、祖母からいただいたメッセージだと思います。

“仏法聞きがたし、今すでに聞く” 自身を見つめ、自身を知り、そしてありのままの姿で心が満たされて生きていけるようにと思います。

ご講師、助手の方々、職員の方々、一緒に学ぶ皆様、そして家族、仕事先の方々のおかげによって有り難い時間をいただいています。いつの日か、人生を振り返った時、今歩んでいる道に傾くことができるよう学ばせていただきたいと思っています。



やな がわ

柳川

まり こ

眞理子

平成29年度受講

長男がこの4月から中央仏教学院に入学したのを機に、自分ももう一度、学生に戻って学びを深めたいと思ったのが入学のきっかけです。

毎週木曜日の早朝、品川駅から新幹線に乗って片道2時間10分の日帰りですが、日常の中ではなかなか作れない「私だけの時間」を楽しみながら京都まで通っています。

別科に入学して驚いたのは、布教使やシニアの方が多く事です。中には何年も通学されている方もあり、僧侶の自分が「終身、勉学布教を怠らないこと」であると、改めて教えていただいているような気が致します。

講義の中では深川勧学和上の「安心論題」が1番好きです。若い頃に比べ記憶力はありませんが、ご講義を受けながら、ただ「今、私が阿弥陀如来の大きなお慈悲の中に包まれている幸せ」を磨かせていただいております。



やま どり

山鳥

かず みち

一道

平成29年度受講

素晴らしい先生との出会いがありながら、学生時代は睡眠学習を専門にしてきた自分が宗学を学びたいとの思いに駆られた時に、宗学院別科が開かれていたことに感謝するばかりです。

自分のような者から宗学の研鑽を深められた方まで、どなたにとっても充実した場が、この宗学院別科です。お聖教を引くことに手間取る自分をさりげなく助けてくださる隣の席の温かい先輩。本館講堂の凜とした空気の中、時に笑いを交えながら丁寧に説いてくださる和上方。もったいないは我がはからいですが、もったいなく感謝せずにはおられません。

自分が学ぶことの意義と、お寺を預かる者として学ぶことの意義を問いながら、多くのご縁の中で学ばせていただきます。